



# 1年中ダイビング日和!

## 春

## 夏

## 秋

## 冬

海の中にも四季がある。通いなれた海があると感じることができる海の季節感。

首都圏から車で2時間と少しで到着してしまう、東伊豆川奈。

この海に根を降ろして今年で10年。常に「川奈らしい楽しみ」を追求し、

数々のダイバーを虜にしてきた「ダイビングサービス川奈日和」。

熱き川奈愛を秘めたガイドと共に、1年間にわたり撮り続けた写真を今ここに紹介しよう。

## 東伊豆川奈

左から/春は芽生えの時期。いろんな魚の子供たちが元気に泳ぎ回る  
夏はポイントが熱い。視界を遮る魚群に興奮する  
秋はビーチでハゼ三昧。お魚好きにはたまらない季節  
冬は澄みきった海中に心を奪われる。しっとり

Photo&Text 古見きゆう  
Special Thanks 川奈日和, 川奈ダイビングサービス  
Design Sana☆

Information Link <http://www.b-yori.com/> 関連情報HPへ

# 春



## GUIDE シズカ's Voice

春は海藻や海草が生い茂る季節、色で言うならグリーンです。海藻の森の中に、沢山の小魚達が隠れています。アナハゼの赤ちゃんが成長していく様子や、小さなヒメイカの産卵などが観察できます。レアなウミウシにも遭遇することの多い季節で、ウミウシ好きなダイバーさんも必見ですね!

5月にはアオリイカの産卵も盛んになり、多い時は10ペア以上のアオリイカが水中に設置した産卵床に集まり、産卵SHOWが繰り広げられます。その中で雄同士の激しい争いが始まることもあり、迫力満点です。

そろそろ夏の始まりかな〜とウキウキしてくる季節です。



海藻の上にちょこんと乗った極小ダンゴウオ。じっくり探すとこんなお魚も…

Spring in Kawana

1年中ダイビング日和!  
春 夏 秋 冬  
東伊豆 川奈  
Web-lue 2010. Autumn

Information Link  
<http://www.b-yori.com/>

← 関連情報HPへ



01

春の伊豆はいわゆる「春濁り」と呼ばれる現象が起こり、海中は浅葱色に濁った日が多くなる。しかしこれも、自然のサイクルではとても重要なことで、冬の時期に下がった水温が徐々に上がり始めることにより、プランクトンが一斉にわき出し海の中を濁らせる。これらが川奈の海の栄養源となる訳だ。古来から日本には「水清くして魚棲まず」というステキな言葉があるが、春の海はまさにこの言葉を表している。

川奈のビーチポイントはだまかに分けて、根沿いに潜るか沖に広がる砂地を潜るかの2パターンが基本となる。もちろん両方をいっぺんに潜ることも可能だが、できることなら1ダイブずつ分けて潜ることをお勧めしたい。

この春の時期には、砂地のいたる所から背丈の短い海藻がニョキニョキと生えている。それらには、体長わずか2cmほどのアナハゼの幼魚や、小指の爪ほどのヒメイカが付いていることがある。最初はガイドに教えてもらいな

がら、徐々に目が慣れていけば自分でもたくさん見つけることができるだろう。なんだか樹の上で子供が遊んでいるようで、ものすごく微笑ましいインチュエーションだ。

その他、運が良ければ目がくりくりとしたヒレナガカサゴなどにも出会えるだろう。それから個人的にヒットだったのが、ミギマキやタカノハダイの幼魚たち。大変失礼だが大人になってしまうと、お世辞にも可愛いとは言い難い彼らも、幼魚のころは格別の愛らしさ。ここぞとばかりにたくさん記念写真を撮ってしまった。

とにかく春の川奈のキーポイントは幼魚と海藻、そして少し濁った水。海藻はいろんな小さな生き物の隠れ家でもあり、水中写真の良きアクセントともなる。浅葱色の水は青い海とは違った、何ともいえない柔らかい雰囲気を感じさせてくれる。春は海藻をじっくり眺めて柔らかい空間で過ごしている、プリティーな彼らを探してみてもいいかなだろう。

## 浅葱色の海で幼魚と戯れる



02



03

05/ 熟練ガイドのライトの先から、次々とおもしろ生物が現れる

06/ 深海性のサギエも登場

07/ キタマクラの幼魚。入学式っぽいですね



04



05



06



07



08



09



10



11

08/ すこし濁った海水が春の雰囲気を盛り上げる  
09/ ハオコゼとアメフラシの井戸端会議  
10/ ミギマキの幼魚も個人的に好きなのです  
11/ 初めて出会った、ヒレナガカサゴ。通称スティッチ  
12/ ホソハスエラウミウシの類もたくさん見つかるこの季節



12

# 春

### 1年中ダイビング日和!

春 夏 秋 冬  
東伊豆 川奈

Web-lue 2010. Autumn

### Spring in Kawana





## GUIDE シズカ's Voice

陸上も水中もアツい夏、夏季限定ポイントがオープン。7月～9月第1週までの赤根・カジガ根・南尾竜の3ポイントは魚影の濃さはピカイチ!キンギョハナダイの群れに囲まれて幸せな気分になりますよ。

イサキ・タカベ・イナダ・カンパチ・ヒラマサと、次から次に群れのオンパレードで、トビエイが50枚以上群れて飛んでいることもあり、ソフトコーラルも新鮮で水中はもうパラダイスです。夏は恋の季節でもあり、ベラの雄は婚姻色に体色を変え雌に猛アタック。

隠れた見どころは水中に咲く花。ウミヒルモ(海草)の新緑が広がり、7月には可憐で可愛い花を咲かせます。

ブファーツとキンギョハナダイが乱舞する。南尾竜にて

# 夏

## 1年中ダイビング日和!

春 夏 秋 冬  
東伊豆川奈  
Web-lue 2010. Autumn

Summer in Kawana

Information Link  
<http://www.b-yori.com/>

← 関連情報HPへ



- 01/ 潮のあたる根の先端は信じられないほどの魚群が渦巻く
- 02/ ウミトサカを眺めるミアミラウミウシ。派手ですね
- 03/ 夏の太陽を見上げると気持ちがいい
- 04/ イバラカンザシとソラスズメダイの組み合わせがクワイ
- 05/ サンゴ、ソフトコーラルなどボートポイントの景観はじつに味がある
- 06/ コウライトラギスが噂中…

- 07/ イサキやスズメダイの群れにブリなどが突っ込んでくることも
- 08/ ボートは目の前の港から出港。ラクチンです



## 夏はボートで脅威の魚群に出会う

夏の川奈はなんといってもボートがすごい。期間限定のポイントである赤根や南尾竜は、潮あたりが良く地形に起伏があり、魚が集まりやすい環境になっている。ENしてすぐに迎えてくれるのは、雲海のようなネンブツダイやクロホシイシモチの群れ。あまりにも大きな群れなので、思わずここで足を止めそうになってしまうのだが、意を決して沖のメインの根へ向かうと、次々にスズメダイ、イサキなどの群れが現れる。鮮やかなオレンジ色のウミウチワや紫色のフトヤギなどがびっしり生え揃う海底が、魚群に色を添えるように美しい。なんだか日本画の世界に入り込んでしまったかのような感覚だ。

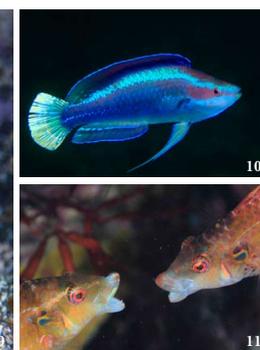
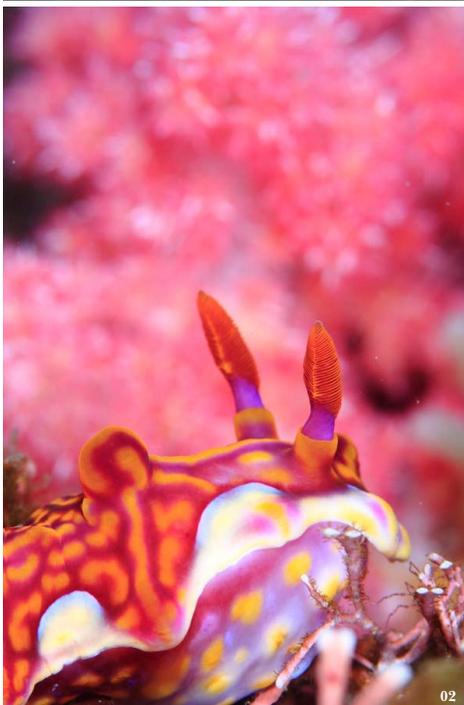
あまりの被写体の多さに寄り道に寄り道を重ね、やっとこさっとこ辿り着いたメインの根では、これまでの川奈のイメージを一掃してしまうほどの衝撃を与えられた。目の前が全部魚なのだ。キンギョハナダイ、クロホシイシモチ、イサキなどなど、これでもか!というほどの魚の量。

軽く流れる潮に乗り踊るように群れる彼らに心を奪われ、少しのあいだ、ただただ放心状態でこの塊を眺めていた。これまで様々な海外の海も潜ってきているが、僕の目に映った川奈の魚群は、どこの海の魚群にも負けないほど美しく迫力のある群れだった。

潜る前のプリーフィングで「この時期のボートは群れが熱いんですよ～」とは聞いていたものの、正直ここまですごいとは思いませんでしたし、こんな環境が伊豆にもあったんだと、改めて川奈の実力を痛感させられた。恐れ入りました!夏のボートポイント恐るべし…。

そしてビーチでは魚の求愛行動やウミヒルモの花など、こちらも見所満載。夏の川奈は休んでいる暇はないのです。

- 09/ サザエの新居に引っ越してきたニジギンボ夫婦
- 10/ イトヒキベラの婚姻色はキラキラのメタリック
- 11/ こちらも噂中のオハグロベラ
- 12/ ジョーフィッシュもスタンバイしてますよ



1年中ダイビング日和!  
春 夏 秋 冬  
東伊豆 川奈  
Web-lue 2010. Autumn

Summer in Kawana

Information Link  
<http://www.b-yori.com/>

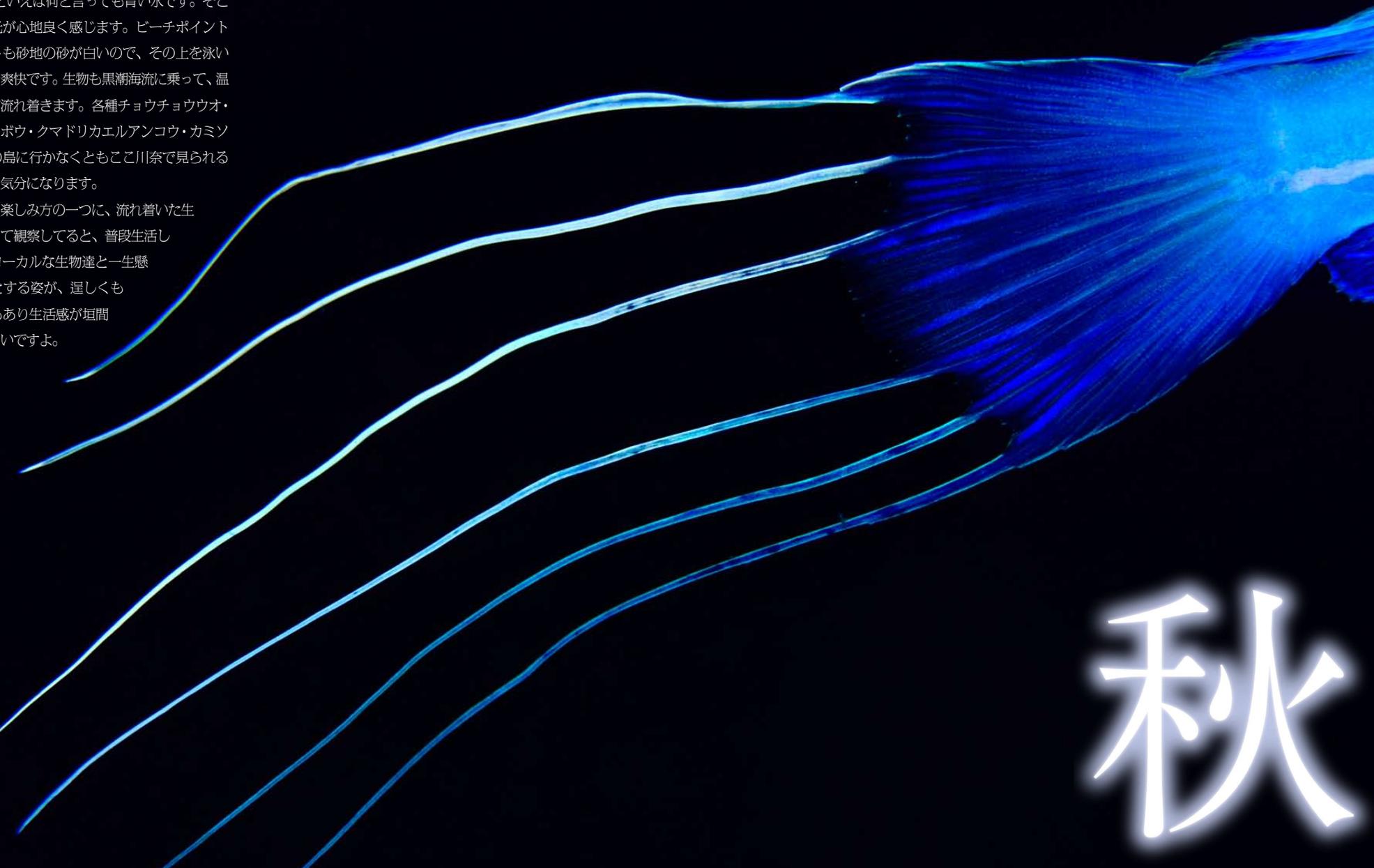
関連情報HPへ



## GUIDE やぎ's Voice

秋といえば何と言っても青い水です。そこに差し込む太陽光が心地良く感じます。ビーチポイントもポートポイントも砂地の砂が白いので、その上を泳いでいるだけで気分爽快です。生物も黒潮海流に乗って、温かい海の生物達が流れ着きます。各種チョウチョウオ・ヒレナガネズリンボウ・クマドリカエルアンコウ・カミノリウオなど。南の島に行かなくともここ川奈で見られるのが、少し得した気分になります。

個人的にお勧めな楽しみ方の一つに、流れ着いた生物達の視点になって観察していると、普段生活し慣れない場所でローカルな生物達と一生懸命共存してこうとする姿が、遅しくもあり涙ぐましくもあり生活感が垣間見れてとても面白いですよ。



# 秋

妖精とも言えるハナハゼの尾ビレ。川奈のハナハゼは近寄りやすい

1年中ダイビング日和!  
 春 夏 秋 冬  
 東伊豆 川奈  
 Web-lue 2010. Autumn

Autumn in Kawana

# 秋は死滅回遊魚とハゼ三昧

夏のけだるいような暑い日々も終わり、徐々に気持ちよく涼しい風が吹き始める秋。しかしながら海の中は、一年のうちで一番ホットな時期を迎えると言っても過言ではない。海の水も黒潮の接岸と共に徐々に透明感を増していき、南方からの死滅回遊魚たちが流れ着く。彼らの出現によって、海中の彩りはいっそう華やかなものになる。

そんな秋の楽しみ方として特に推薦したいのが、ビーチ砂地の各種ハゼたち。川奈の砂地は基本的にきめの細かい砂泥質なもの。一見すると全く地味な環境なのだが、そこにはフォト派もうなるハゼたちがワンサカいるのである。クローズアップすると模様のでかいカスリハゼやイトヒキハゼ。写真に捉えることによって、その美しさが浮かび上がるクサハゼ、ハチマキダテハゼ、ハナハゼ、やっぱり可愛いミジンベニハゼなどなど、じっくり腰を据えて向き合える被写体がたくさんいるのである。

そんななか、今回の取材でとても印象的で興奮した出会いがある。潜る前にガイドの八木さんと「どんな感じで攻めましょうか??」と打ち合わせをしていたところ、八木さんの口から「数日前までヒレナガネズリンボウがネズリンボウと一つの巣穴に同居していたんですよ〜。でも、ここ何日かで分かれちゃったみたいで、ネズリンボウしか出てないんですよ」という言葉が出てきた。そんなことを聞いてしまったら、これは行くしかない!



01/クサハゼの淡い美しさは写真に撮ってこそ  
02/淡い色のベニカエルアンコウはフォトジェニック  
03/立派な体格のイトヒキハゼ  
04/逆さで踏ん張るオキナワベニハゼ  
05/フトヤギに隠れるイソバナカクレエビ  
06/とても絵になるアカスジウミタケハゼ

07/ハナハゼとダテハゼたちの三者共生でこそ  
08/素晴らしい美しい環境にいたイバラタツ  
09/ミジンベニハゼが住んでいる環境ごと撮ってみた  
10/ハゼ好きにはたまらないカスリハゼ  
11/すぐ逃げてしまうその名もシュンカンハゼ  
12/オニハゼの巣穴に頭を突っ込もうとするカワハギ

「じゃ、ダメもとで行きましょう〜」という八木さんに連れられビーチにエントリー。二人で砂地を泳ぐこと数分間、突然八木さんが手を叩いて笑い出した。「八木さん、いったいどうしちゃったの?」心配する僕をよそに、八木さんが力強く砂地を指差した。その先には、なんとヒレナガネズリンボウとネズリンボウが、見事にホバリングしているではないか。

いろいろな取材の経験から「いや〜昨日までは見れたんですけど…」という類いの言葉には慣れているので、今回も正直なところ、八木さんもダメもとで言ってたし、まあ撮れなくてもいいやという軽い心積りでいたのだが、集中力は一気に上昇。慎重に慎重にアプローチして、狙い通りのツーショットをゲットすることができた。

EX後、すぐさま八木さんに感謝と興奮を伝えていると、「いや〜本当に良かったですよええ。むふふ」という八木さんの言葉の中に、ある種の「してやったり感」を感じた。もしかしたら、最初からあまり期待させないようにしていたのは、興奮を倍増させるための演出だったのか…?

本当のところは八木さんにしかわからない。でも、この一本で僕にもわかったことがひとつ。ダイビングの楽しさはガイドの力で大きく変わってくるということだ。



念願だったヒレナガとネズリンボウのカット

1年中ダイビング日和!  
春 夏 秋 冬  
東伊豆川奈  
Web-lue 2010. Autumn



## GUIDE やぎ's Voice

冬には水が秋の青色から透明感を増していき、透き通った静寂を感じさせてくれる海中になります。特に12月からは季節風の西風が変わるため、ビーチはベストコンディションになります。ビーチではアンコウ・マトウダイ・サギフエなどの水温が低い時ならではの深場の生物が見られるのも良いところ。人気のダンゴウオも抱卵場を探すため大きな個体から、ハッチアウトとした天使の輪付き稚魚などが見られはじめるのもこの季節です。ポートでは巨大なトビエイや2月にはナヌカザメが、高確率で見られるようになります。

# 冬

Winter in Kawana

1年中ダイビング日和!

春 夏 秋 冬  
東伊豆 川奈  
Web-lue 2010. Autumn

青く澄んだ海にさまざまな魚が入り乱れる



Information Link  
<http://www.b-yori.com/>

← 関連情報HPへ



個人的な話だが冬の海は気持ちがいい。ひんやりとした水は深く澄んでシーンと静まり返っていて、魚たちの動きも春から秋までの忙しないまでの活発な動きとは違い、どこか落ち着きを取り戻しているようにも思える。何かいいって雰囲気がいいのである。

この時期はビーチの根泊りを沖に向かって泳いでいくと、大きなウミトサカたちが元気に満開を迎えている。そこに大きなマアジの群れやアカカマスなどの群れが、自分たちの存在を誇示するように泳ぎ回る。「日本の食卓にはやっぱりオレたちでしょ!」「いやいや俺たちの方が美味しいんだぜ!」間違いなく魚はそんなことを訴えはしないだろうが、そんな目線が彼らを見てしまう自分も確かにいる。沖に出た帰りに、メバルたちが数匹で寄り添いながら泳いでいるところを目撃した。ファインダーをのぞきながら彼らの動きを見ていると、突然一匹のオスがメスの前に回り込み、体を震わせる仕草をみせた。その瞬間、隣に

いた八木さんも「ああ〜!」と声をあげた。メバルが求愛のための放尿をしたのである。題して愛の放尿。一瞬八木さんも興奮して、一緒に漏らしてしまったのかと思ったが、かううじてセーフだったようだ。

水が澄んでいるせいか、チャガラやハナハゼもいつもより体色がキレイに見える。メバルの求愛しかりサビハゼの卵の世話など、生態行動の数々もじっくり見ることができる。これからは更にサギフエやアンコウなどの深海性の魚たちも浅瀬にやってくる時期だ。そしてチラホラ、皆のアイドル ダンゴウオもやってくる。冬の静寂は賑わいの春への第一歩。

一年を通して潜ることによって感じられることは、まだまだたくさんある。僕の川奈通いはまだまだこれから先も続くだろう。僕と川奈のホームグラウンドとしてのお付き合いは、まだまだ始まったばかりである。

01/ 静かな冬のワンシーン。美しい光景が広がる

02/ 魚たちはまだまだ元気。この時期の魚は旨いんだ

03/ ずっと見たかったメバルの放尿シーン。こんな愛情表現もあるんですね

04/ ハナハゼも大きな群れをつくる

05/ チャガラの子ビブツな模様が青い海によく映えるんです

06/ この時期はサビハゼが卵を産む時期でもある

07/ こちらがサビハゼの卵塊。どこか不思議な形をしている

## SHOP INFORMATION

### ダイビングサービス川奈日和

今年でオープン10周年を迎えるダイビングサービス。川奈の海に惚れ込み、自身も水中撮影を精力的に雑誌やWEBサイトなどで発表する八木さんは、数多くの水中写真家やフォト派ダイバーから、絶大な信頼を集めている。基本的には八木さんと、丁寧なケアでビギナーや講習などにも定評があるシズカさんの二人体制で、川奈の魅力をトコトン紹介してくれる。老若男女、初心者からプロまで誰もが楽しんでしまう。それが川奈日和だ。

川奈日和が10/17より **Diving&Cafe 川奈日和** としてリニューアルオープン!

川奈日和が2010年10/17より、リニューアルオープン!  
川奈港より近い立地と、なんと本格的なカフェも併設される。より潜りやすくなり、よりアフターダイブも充実し、更に快適度を増す川奈日和。新しく生まれ変わる川奈日和に要注目!!



新住所

〒414-0044  
静岡県伊東市川奈1322-14  
Diving&Cafe 川奈日和  
TEL : 0557-44-5755

静寂と賑わいが同居し、そして  
また春へ向かう

Winter in Kawana

1年中ダイビング日和!

春 夏 秋 冬  
東伊豆 川奈  
Web-lue 2010. Autumn



Information Link  
<http://www.b-yori.com/>

関連情報HPへ